

**平成23年度
在宅医療に関するアンケート調査報告書
(概要版)**

平成23年12月
新 潟 市

I 調査概要

1. 調査目的

超高齢社会の進展により、長期にわたる療養や介護が必要とする方の増加が見込まれる中、市民の在宅医療に係る意識やニーズを把握することにより、今後の在宅医療推進の施策検討等の基礎資料とする。

2. 調査項目

- | | |
|------------------|---------------|
| (1) 対象者属性 | 4問 (問1～問4) |
| (2) 現在の健康状態 | 5問 (問5～問9) |
| (3) 医療機関への受診について | 2問 (問10～問11) |
| (4) 「在宅医療」について | 15問 (問12～問26) |

3. 調査設計

- | | |
|----------|--|
| (1) 調査地域 | 新潟市 |
| (2) 調査対象 | 平成23年8月1日現在の住民基本台帳に登録されている
40歳以上の市民 |
| (3) 対象者数 | 4,000人 |
| (4) 抽出方法 | 無作為等間隔抽出法 |
| (5) 調査方法 | 郵送法 (調査票の配付・回収とも) |
| (6) 調査期間 | 平成23年8月11日～8月26日 |

4. 集計結果の数字の見方

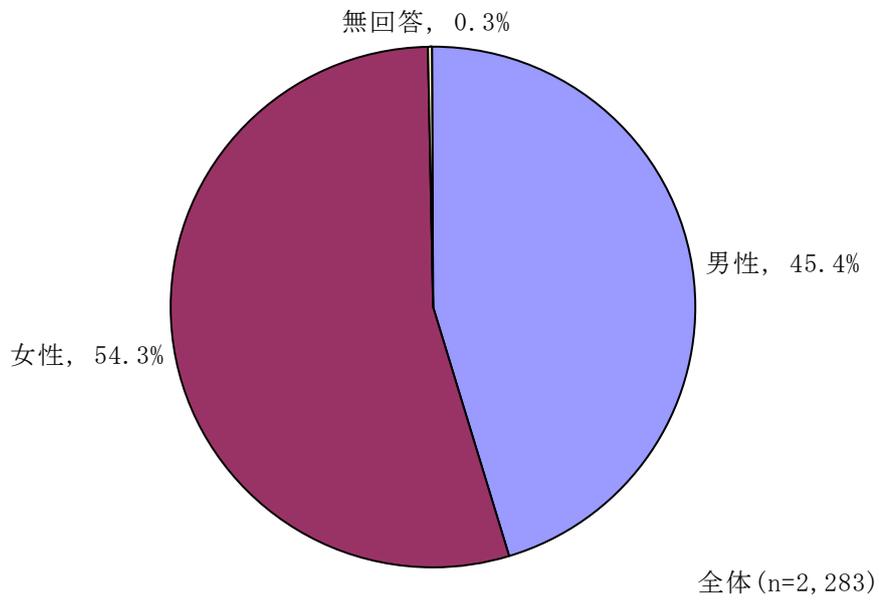
- (1) 図表の「n」は回答総数 (または該当者質問での該当者数) のことで、100%が何人の回答に相当するかを示す比率算出の基数である。
- (2) 数値 (%) は単位未満を四捨五入してあるので、総数と内訳の計が一致しないこともある。
- (3) 代筆回答は無効回答とし、回答総数には含まない。
- (4) 「〇はひとつ」とした質問に対して複数回答したものは無効回答とし、回答総数には含まない。

5. 回収結果

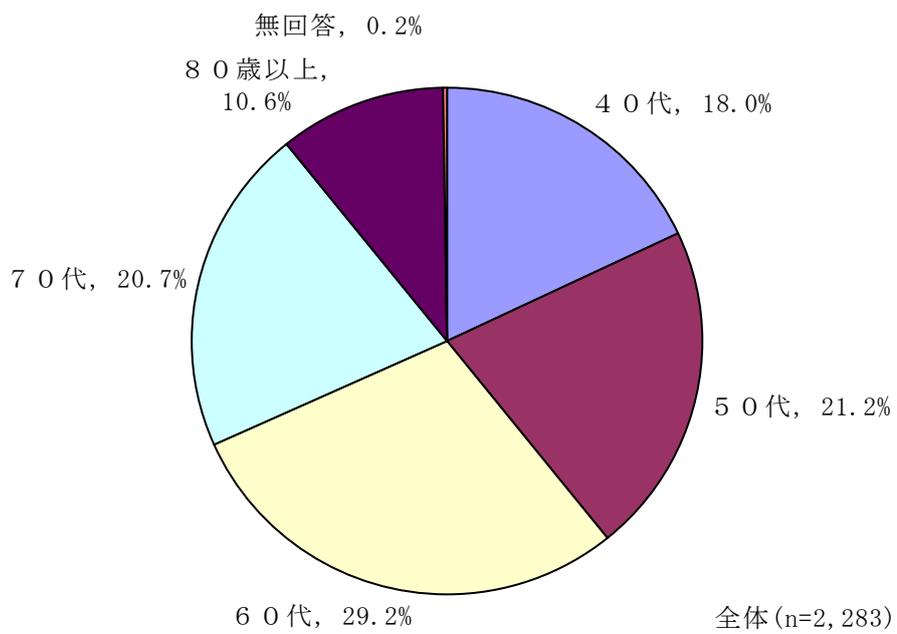
- | | |
|-----|--------|
| 回収数 | 2,287人 |
| 回収率 | 57.2% |

6. 回答者の構成

(1) 性別 (問2)

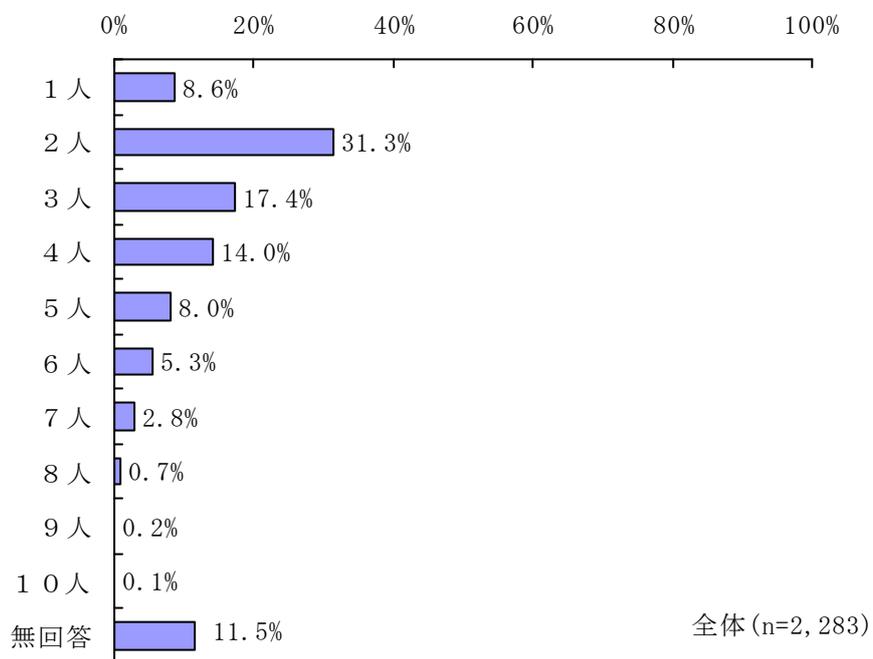


(2) 年齢 (問3)

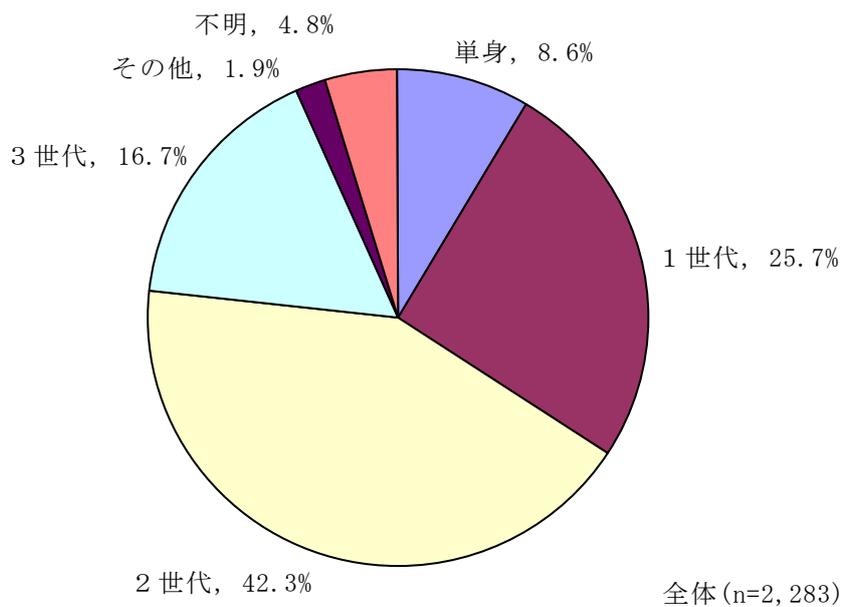


(3) 家族人数・家族構成 (問4)

①家族人数



②家族構成

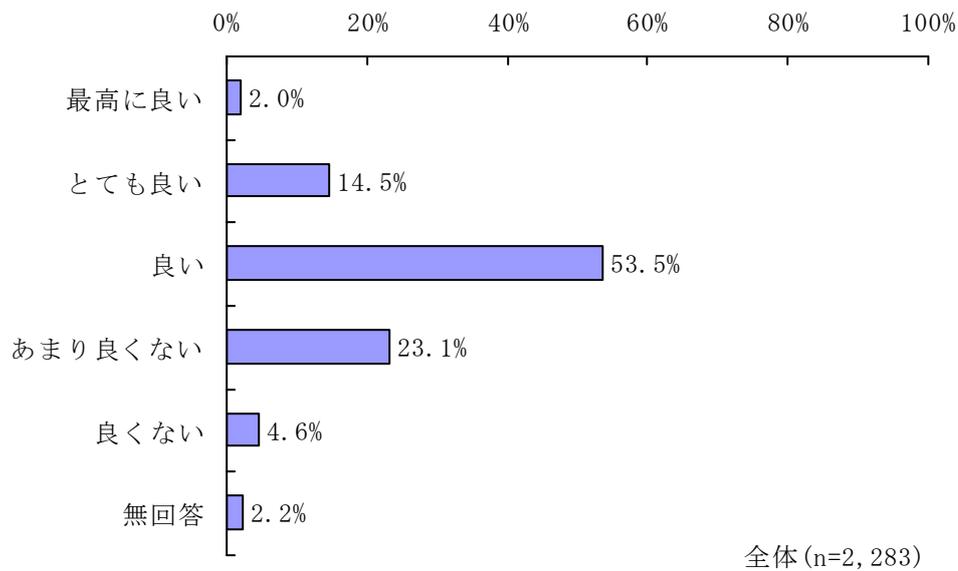


II 調査結果

1. 現在の健康状態

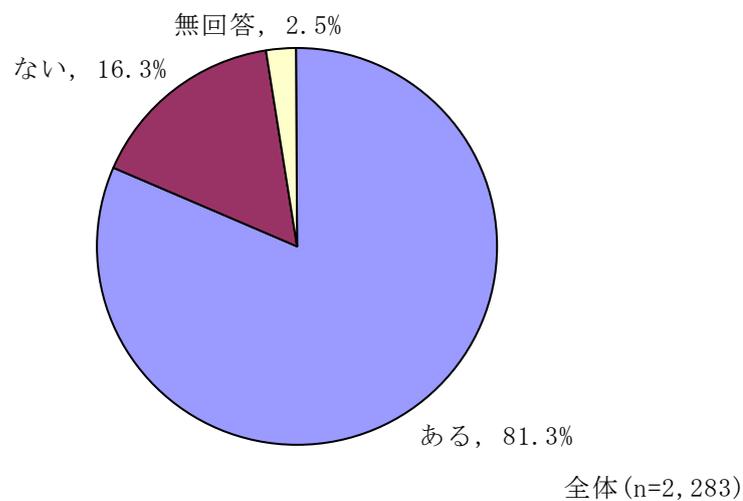
問5 あなたの現在の健康状態についてお聞きします。(○はひとつ)

健康状態は、「良い」(最高に良い, とても良い, 良い)が70.0%で, 「良くない」(あまり良くない,良くない)が, 27.7%である。



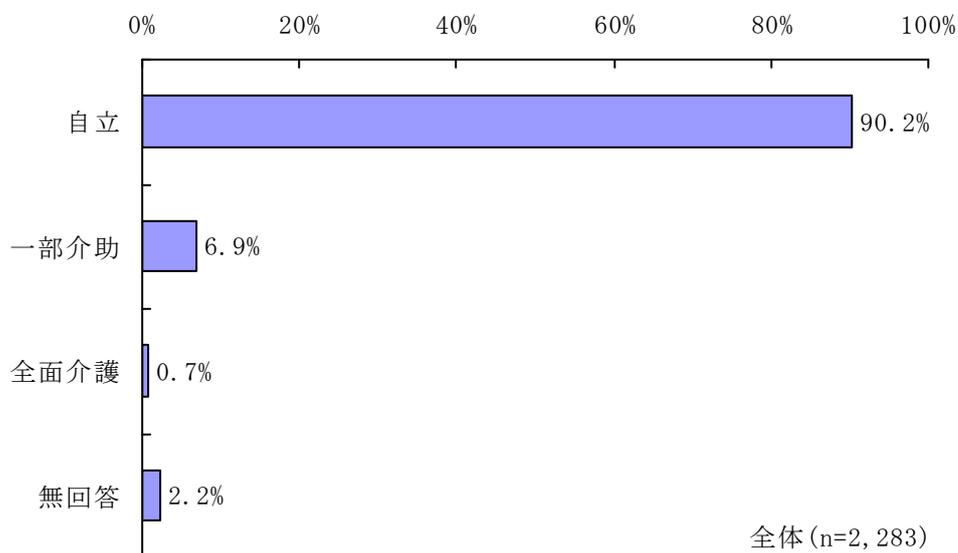
問6 あなたは, 家の近くに安心してすぐにかかれる医療機関がありますか。(○はひとつ)

安心してかかれる医療機関が「ある」は81.3%であり, 「ない」は16.3%である。



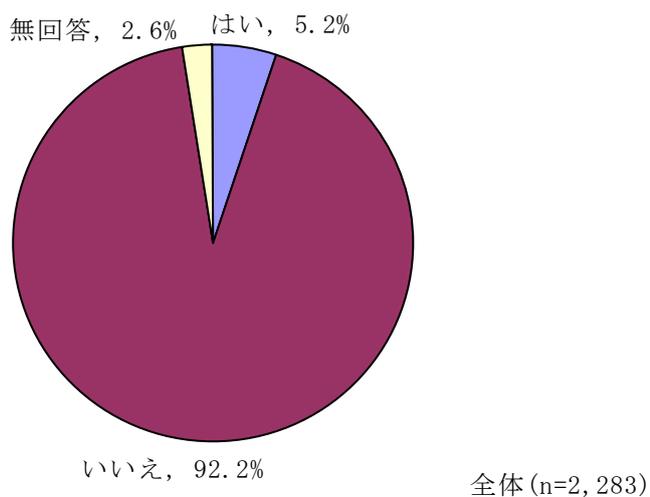
問7 あなたの現在の日常生活の状況についてお聞きします。(〇はひとつ)

日常生活では、食事や排泄、入浴などの基本的な生活動作に支障なしとする「自立」が90.2%、「一部介助」(6.9%)や「全面介護」(0.7%)で何らかの介助を要するものは7.6%である。



問8-1 あなたは、介護保険※の要介護認定を受けていますか。

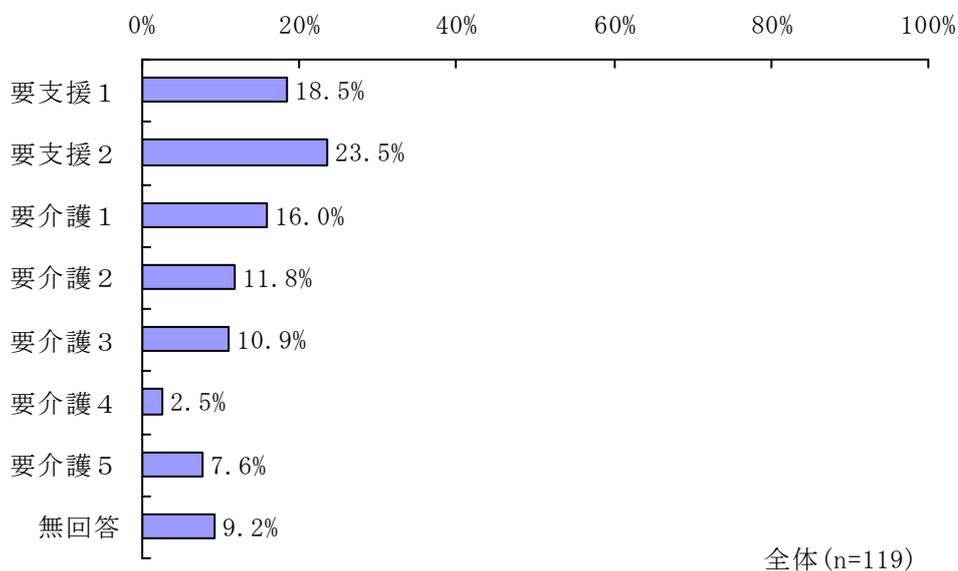
介護保険のサービスを利用するための要介護認定を受けていると回答したのは5.2%で、92.2%は要介護認定を受けていない。



※介護保険は、介護が必要になった高齢者に、訪問介護などの介護サービスを提供することで、高齢者やその家族を支援する仕組みです。

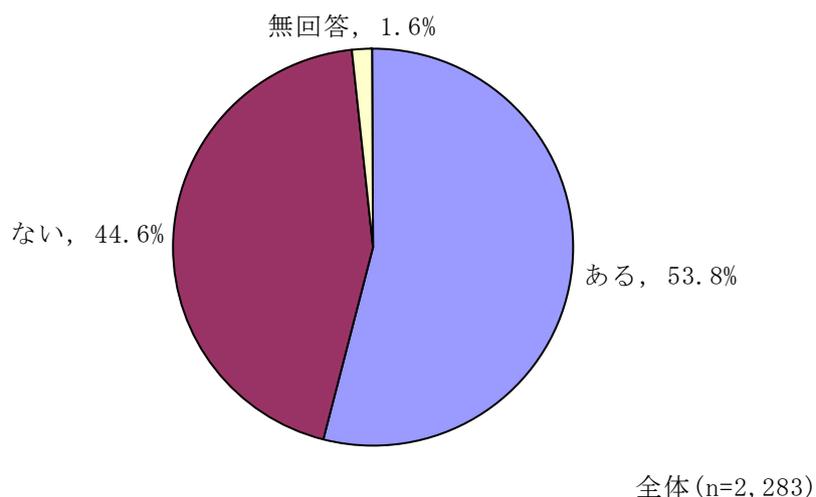
問 8 - 2 「はい」と答えた方にお聞きします。介護度はいくつですか。

介護予防のサービスを利用できる「要支援」（要支援 1・2）は 42.0%であり、介護サービスを利用できる「要介護」（要介護 1～5）は 48.7%である。



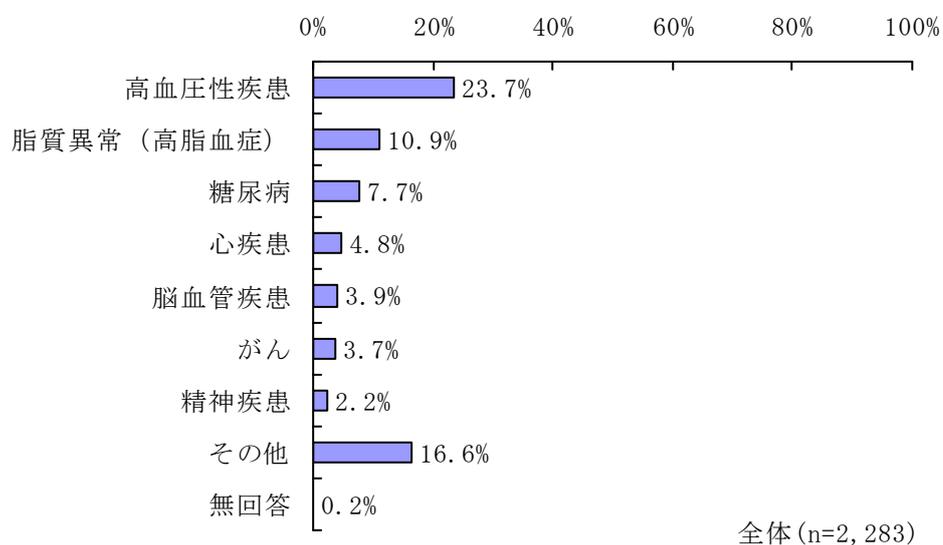
問 9 - 1 あなたは、現在治療中の疾患がありますか。

現在治療中の疾患が「ある」は、半数以上の 53.8%であり、「ない」は 44.6%である。



問9-2 該当するものに○をつけてください。(○はいくつでも)

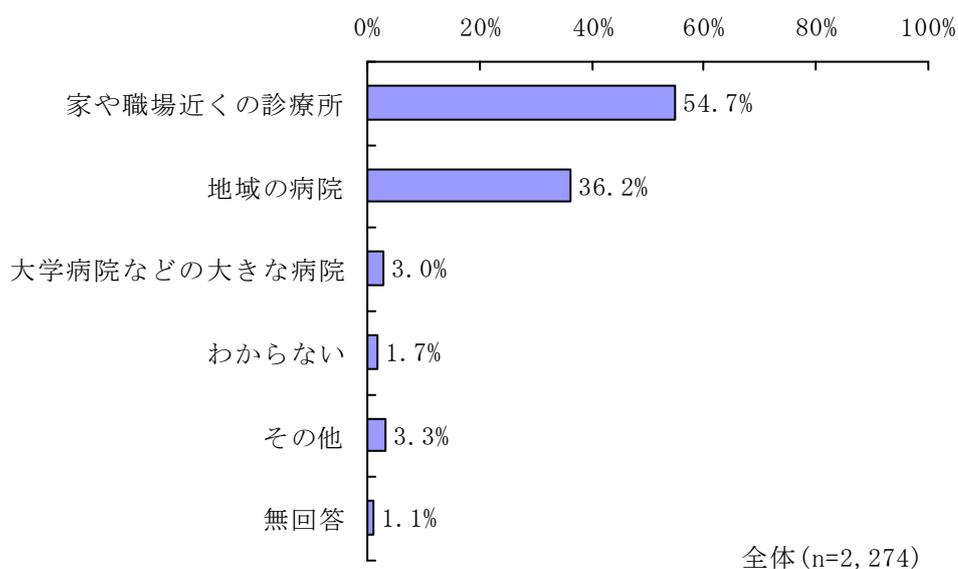
「高血圧性疾患」で治療中が最も多く、全回答者に占める割合は23.7%である。次いで、「脂質異常」(10.9%)、「糖尿病」(7.7%)と続く。



2. 医療機関への受診について

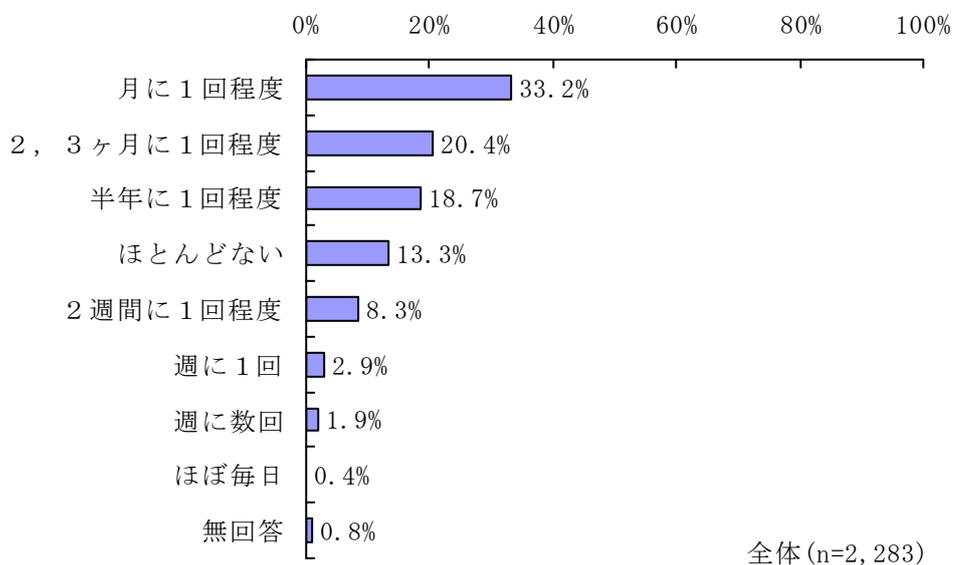
問10 あなたは、風邪など身体の不調で、医療機関を受診する場合、どこに受診しますか。(○はひとつ)

「家や職場近くの診療所」が最も多く54.7%であり、次いで「地域の病院」が36.2%、「大学病院などの大きな病院」が3.0%である。



問 1 1 あなたは、ここ1年間で、どのくらい医療機関を受診しましたか。(〇はひとつ)

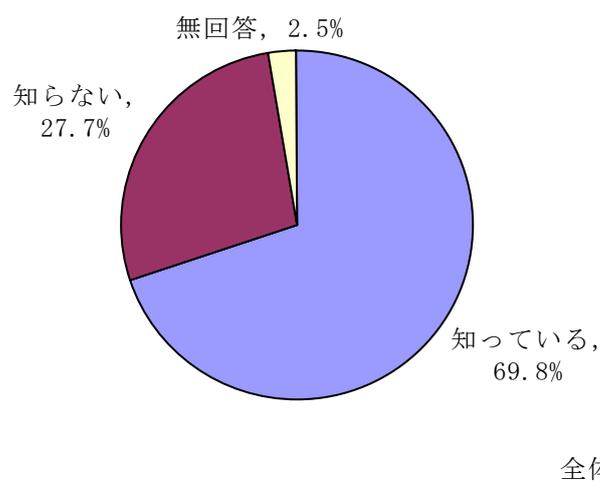
「月に1回程度」が最も多く33.2%、次いで「2, 3ヶ月に1回程度」が20.4%、合わせて半数以上である。「半年に1回」が18.7%で、「ほとんど受診しない」は、13.3%である。



3. 「在宅医療」について

問 1 2 あなたは、「在宅医療」※について知っていますか。(〇はひとつ)

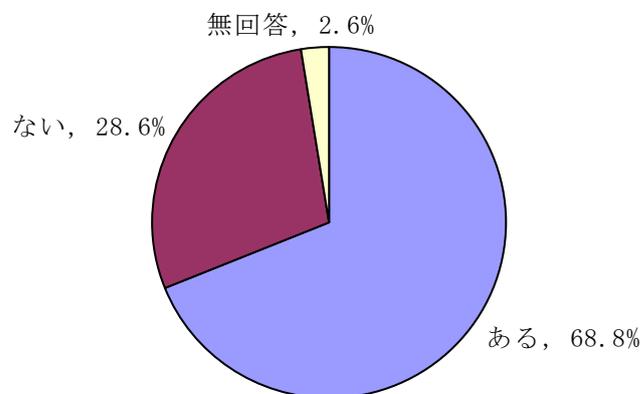
「知っている」が69.8%で約7割を占め、「知らない」が27.7%である。



※「在宅医療」とは、さまざまな病気にかかれた方が、自宅において医師の往診や治療、訪問看護などの医療サービスを受けながら療養生活を送ることをいいます。

問13 あなたは、在宅医療や緩和ケア※について関心がありますか。(〇はひとつ)

認知度とほぼ同様に、関心が「ある」は68.8%で約7割を占め、「ない」は28.6%である。

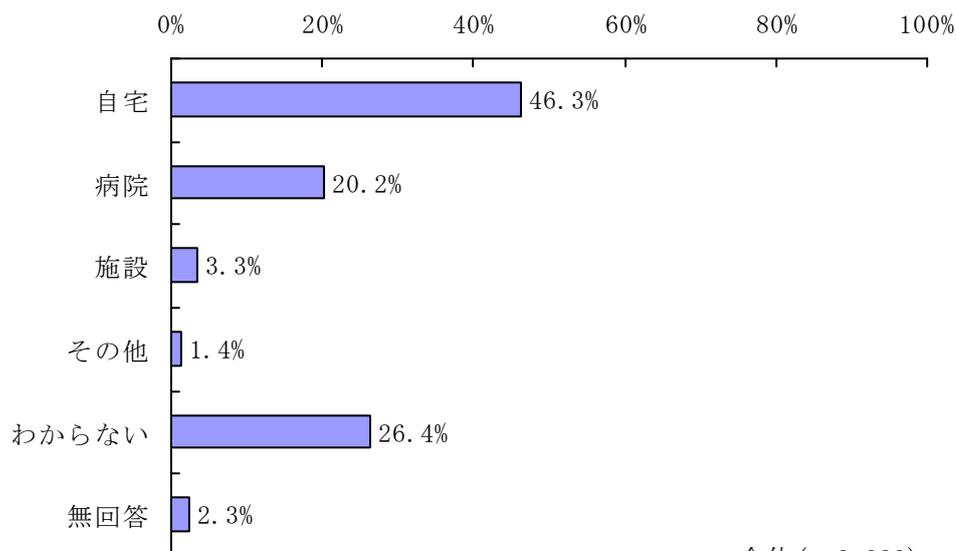


全体 (n=2, 283)

※ 「緩和ケア」とは、治療が難しい方のために、体の痛みや症状、精神的な不安をなるべく解消して、毎日を安らかに過ごせるように支える医療のことをいいます。

問14 あなたは、どこで最期を迎えたいと思いますか。(〇はひとつ)

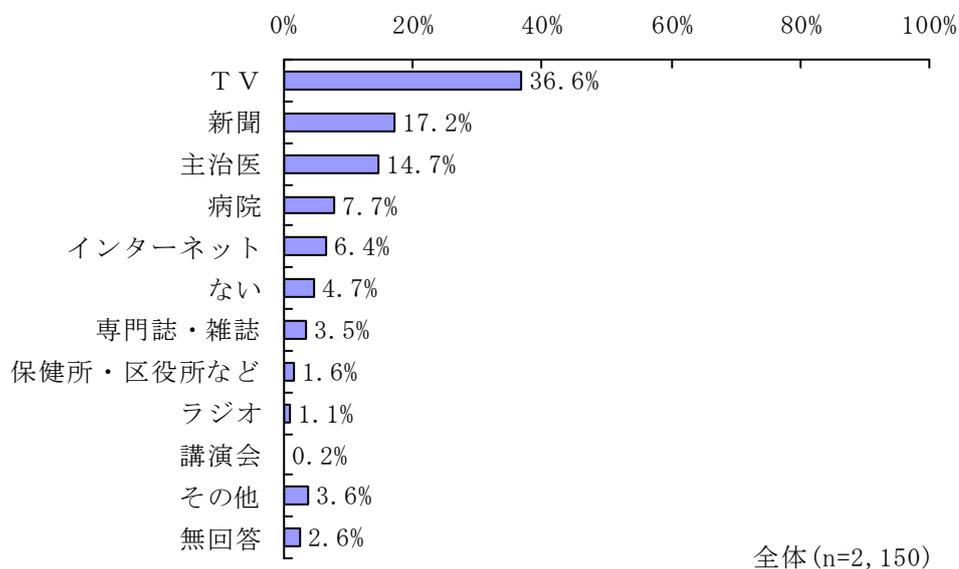
「自宅」を希望するものは46.3%、「病院」が20.2%、「施設」が3.3%、「その他」が1.4%であり、「わからない」が4分の1 (26.4%) である。



全体 (n=2, 282)

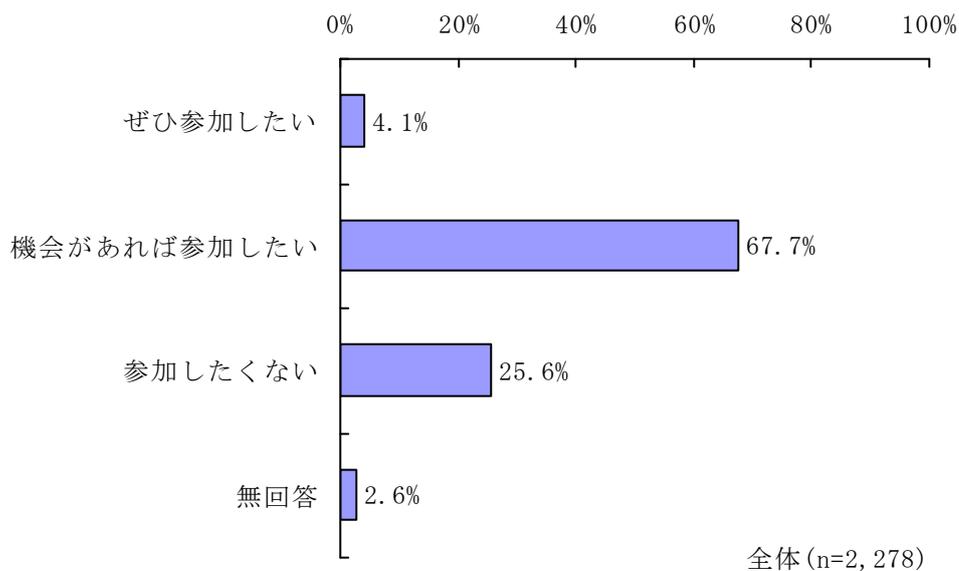
問15 あなたは、日頃、医療についての知識や情報を何から得ていますか。(〇はひとつ)

「テレビ」が最も多く、「新聞」、「インターネット」、「ラジオ」などマスメディアを合わせると約3分の2(61.3%)であり、「主治医」、「病院」、「保健所・区役所など」の専門機関からは、24.0%である。



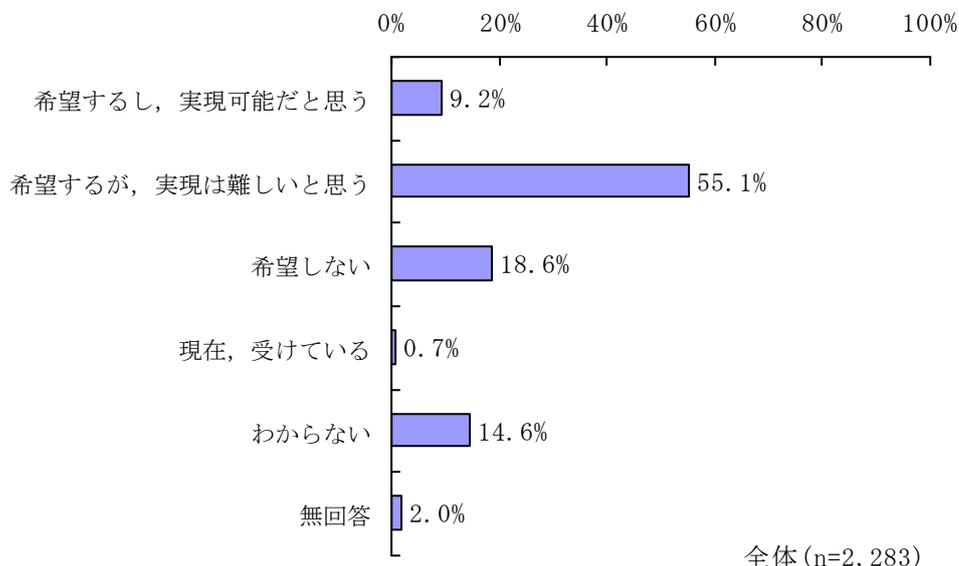
問16 あなたは、在宅医療に関する講演会などがあつたら、参加したいと思いますか。(〇はひとつ)

「参加したい」は、71.8%であり、そのうち「ぜひ参加したい」という積極的参加希望は4.1%である。



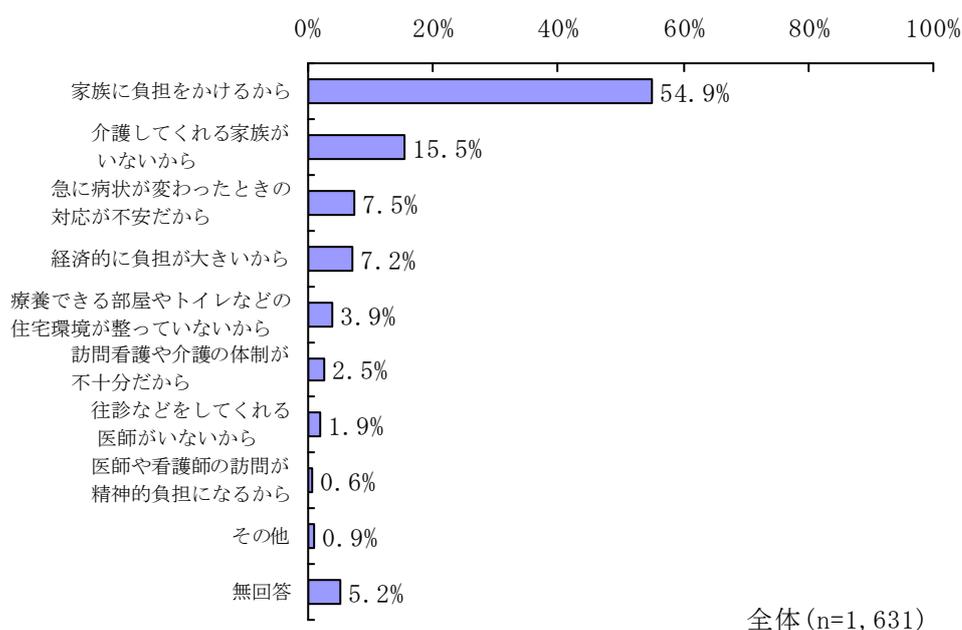
問17 あなたは、脳卒中の後遺症やがんなどで長期の療養が必要となった場合、在宅医療を希望しますか。また、実現可能だと思いますか。(〇はひとつ)

「希望する」が3分の2 (64.3%) を占めるが、「実現は難しいと思う」が55.1%で、「実現可能だと思う」は約1割 (9.2%) である。また、「希望しない」とするものは約2割 (18.6%) である。「わからない」が14.6%、「現在受けている」は0.7%【15人】である。



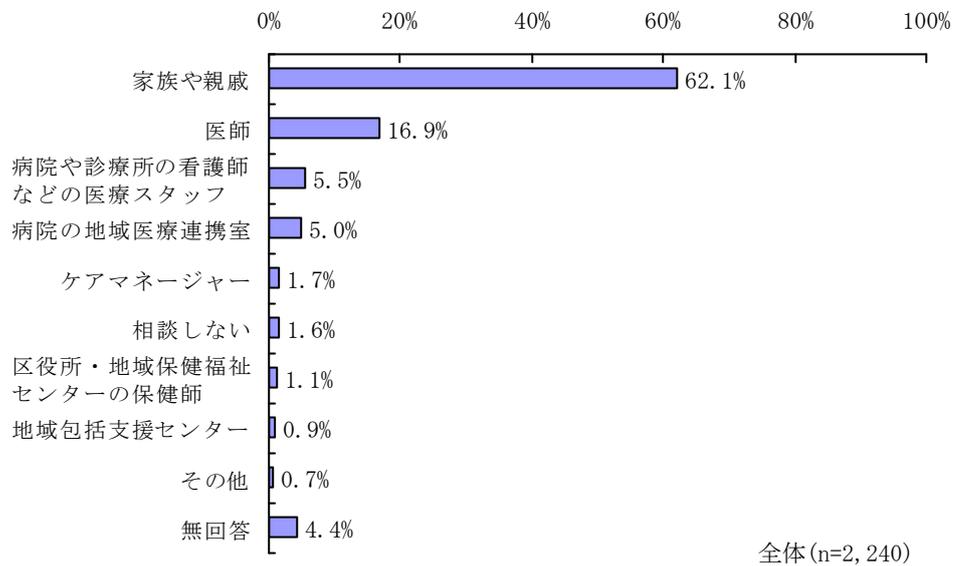
問18 問17で「希望するが、実現は難しいと思う」、「希望しない」と答えた方にお聞きします。在宅医療を希望しない又は実現が難しいと思う理由は何ですか。(〇はひとつ)

「家族に負担をかけるから」が半数以上 (54.9%) を占め、「介護してくれる家族がいないから」が15.5%、「急に病状が変わったときの対応が不安だから」が7.5%、「経済的に負担が大きいから」が7.2%と続く。「往診などをしてくれる医師がいないから」、「訪問看護や介護の体制が不十分だから」を理由とするものは、各々約2%である。



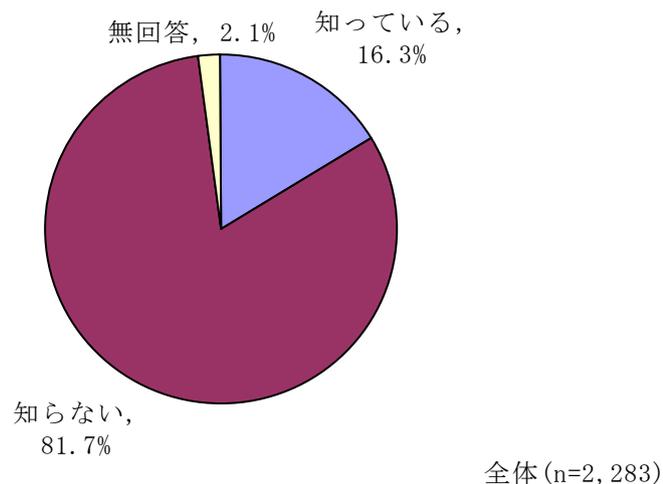
問19 あなたは、もし入院が必要となったら、入院の継続や在宅療養について、誰に相談しますか。(〇はひとつ)

「家族や親戚」が最も多く 62.1%, 次いで「医師」が 16.9%であり, 「看護師など」や「地域医療連携室」を合わせた医療機関スタッフは 27.4%である。



問20 あなたは、「在宅療養支援診療所」※を知っていますか。(〇はひとつ)

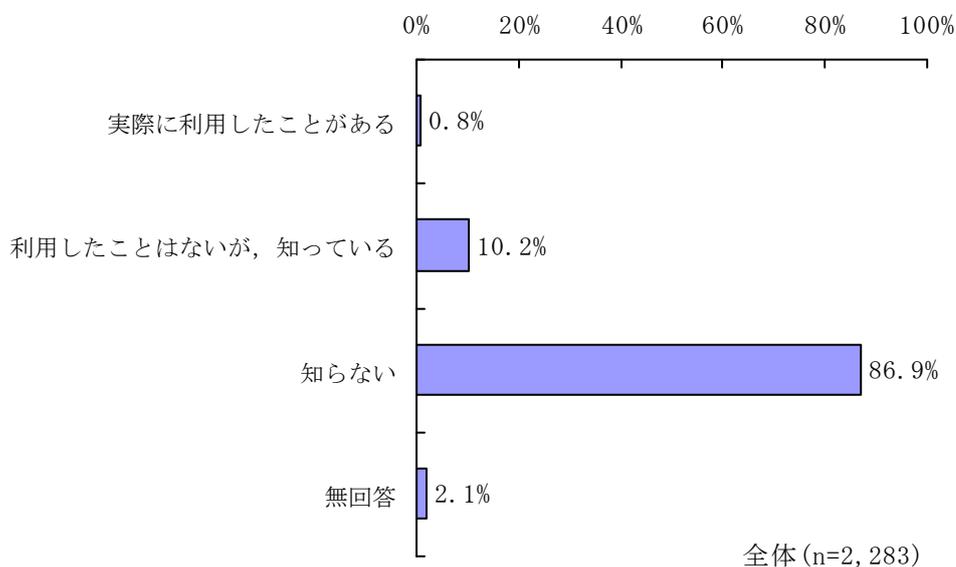
「知っている」は、16.3%であり, 「知らない」は 81.7%である。



※「在宅療養支援診療所」とは、24時間体制で往診や訪問看護を実施する診療所のことをいいます。

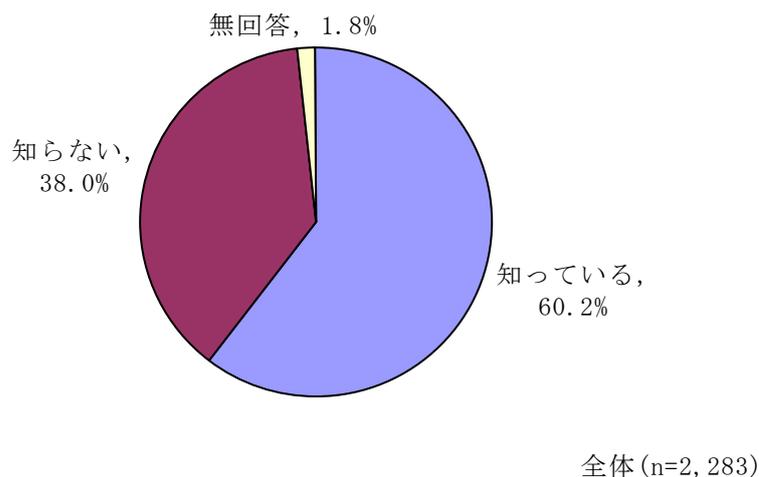
問 2 1 あなたは、自宅近くの在宅療養支援診療所を知っていますか。(〇はひとつ)

「知っている」は 10.2%で、「実際に利用したことがある」の 0.8%と合わせて、11.0%であり、「知らない」は 86.9%である。



問 2 2 在宅医療を支える仕組みのひとつに「訪問看護サービス」※がありますが、あなたはこのサービスを知っていますか。(〇はひとつ)

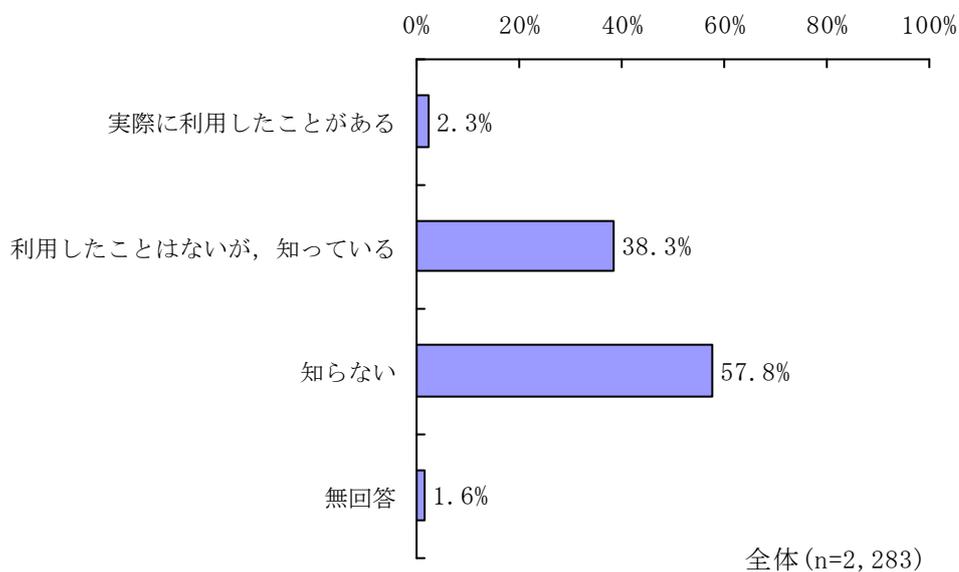
「知っている」と回答した割合は 6割 (60.2%) で、「知らない」は約 4割 (38.0%) である。



※「訪問看護サービス」とは、訪問看護ステーション等から、看護師が医師の指示を受け、自宅へ訪問し、看護ケアを提供するサービスのことをいいます。

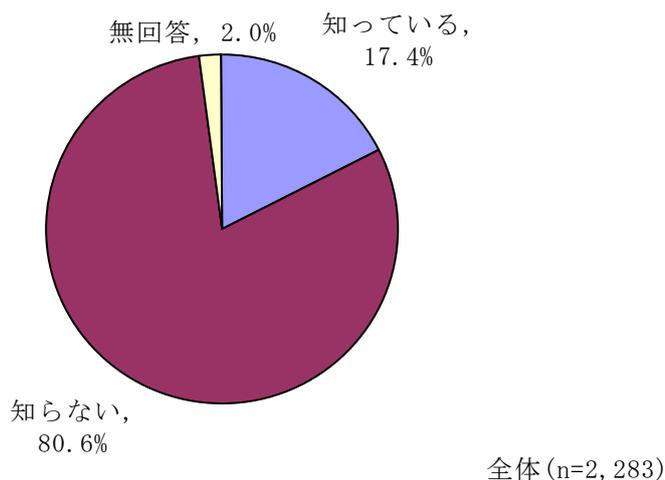
問23 あなたは、訪問看護サービスを利用したことがありますか。また、自宅近くにある訪問看護ステーションを知っていますか。(〇はひとつ)

「知っている」は38.3%で、「実際に利用したことがある」の2.3%と合わせて、約4割である。



問24 あなたは、病診連携※や診診連携※という体制を知っていますか。(〇はひとつ)

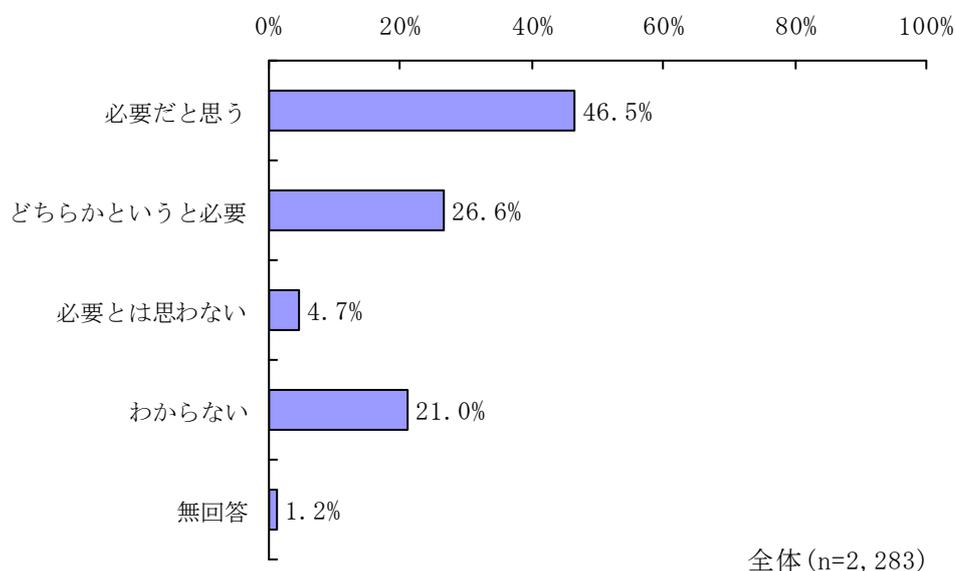
「知っている」は17.4%、「知らない」は80.6%である。



※「病診連携」とは、病院と診療所がそれぞれの役割、機能を分担し、互いに連携することをいい、「診診連携」とは、診療所同士が連携することをいいます。

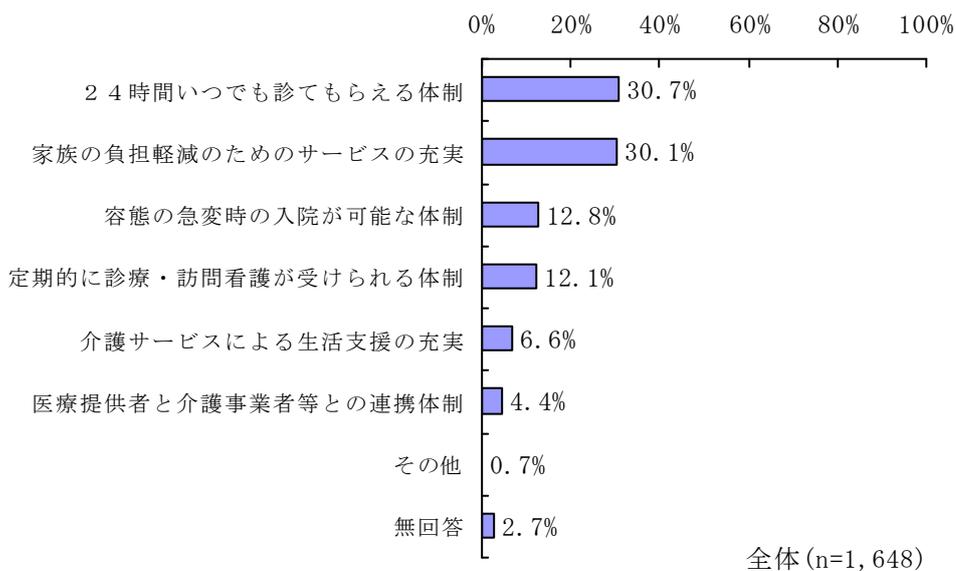
問25 あなたは、「在宅医療」を充実することが必要だと思いますか。(〇はひとつ)

「必要だと思う」は、約半数で46.5%、「どちらかという必要」を合わせると73.1%である。「わからない」は21.0%で、「必要とは思わない」は4.7%である。



問26 問25で「必要だと思う」、「どちらかという必要」と答えた方にお聞きします。どのような体制の整備が一番重要だと思いますか。(〇はひとつ)

「24時間いつでも診てもらえる体制」が30.7%、「家族の負担軽減のためのサービスの充実」が30.1%とともに3割を占める。次いで、「容態の急変時の入院が可能な体制」が12.8%、「定期的に診療・訪問看護が受けられる体制」が12.1%である。



4. 自由意見（主な内容）

（1）在宅医療関係者の人材確保と人材育成

・ 医師不足でただでさえ医師の過労が問題になっている中で、在宅医療の実現が可能なのか。
・ 医師不足，看護師不足に対応するほうが先だと思う。
・ 在宅医療に対応するスタッフ（医師・訪問看護師・ケアマネージャーなど）の増員と人材育成に努めてほしい。
・ 在宅医療関係者の全体的な質の向上を望む。
・ 緩和ケアを希望する人の増加が予測されるので，対応できる人材育成を望む。
・ 介護職の賃金UPなど待遇改善が図られることで，従事者が増加するのではないか。

（2）在宅医療に関する周知・啓発

・ 在宅医療について知らない。講演会や研修会を開催してほしい。
・ 在宅医療の仕組みや在宅療養支援診療所などについて，もっと詳しく知りたい。
・ 在宅医療について，もっとPRすべき。 ホームページ，市報にいがた，町内回覧，小冊子など
・ 相談先がわからない。どこで情報を得たらよいかわからない。
・ 市民に周知する方法を検討してほしい。

（3）在宅療養の実現について

・ 在宅医療の体制整備は必要なことであり，是非進めてほしい。在宅医療の充実を望む。
・ 住み慣れた家で暮らすことができれば，幸せだと思う。
・ 誰もが希望すれば安心して在宅医療を受けることができる体制を作してほしい。
・ 家族の負担軽減のために在宅医療体制の充実を望む。
・ 在宅療養は，理想だと思うが，家族の負担が非常に大きくなる，家族に迷惑がかかるため望まない。
・ 核家族や老夫婦だけの世帯では介護を代わる人もいない中で在宅療養は困難。負担が大き過ぎる。共倒れになってしまう。
・ 介護を担うために仕事は止めざるを得ない。経済的負担が心配，軽減のための対策を望む。
・ 在宅医療には限界があると感じる。家族に負担をかけるより，安心して入院できる体制を作してほしい。
・ 在宅医療を進めるには，介護者がいることが大前提になっているが，現在の家族形態では無理がある。
・ 在宅医療よりも入院できる病院や施設の充実を希望する。
・ ひとり暮らしや高齢者世帯でも対応できる制度をつくってほしい。
・ 近所の診療所や医療機関，訪問看護ステーション等で，24時間対応や緊急時の対応など体制整備が図られないと，在宅医療は無理だと思う。
・ 在宅医療について，何も知らなかった。関心を持って情報収集していきたいと思う。

Ⅲ まとめ

1. 現在の健康状態と医療機関受診状況

現在の健康状態としては、良い（最高に良い・とても良い・良い）との回答は7割を占め、良くない（あまり良くない・良くない）は3割弱である。8割以上は、家の近くに安心してかかる医療機関があるとし、風邪など体調不良時には、半数以上が家や職場近くの診療所を受診するとしている。

最近の1年間においては、3分の1が「月に1回程度」の受診をしており、「2週に1回」「週1回」「毎日」を含め毎月の受診は、ほぼ半数に及ぶ他「2, 3ヶ月に1回程度」の受診も2割ある。

また、全体の半数以上は現在治療中の疾患があり、その内訳は「高血圧性疾患」が最も多く、次いで「脂質異常」「糖尿病」など生活習慣病となっている。

以上の状況から、プライマリケアとしての『かかりつけ医』の果たす役割は大きく、地域医療体制を構築していく上で医師看護師等医療関係者の人員確保や資質向上、病診連携や診診連携など連携体制の確保等について検討していく必要がある。

2. 在宅医療に関する認知度・関心度

在宅医療に関する認知状況として、「在宅医療」について知っているとしたものは、約7割。「在宅支援診療所」については2割未満と少なく、「訪問看護ステーション」は約6割。また「病診連携・診診連携」について知っているとの回答は2割未満である。いずれも区によって差があり10～15ポイントの開きがある。

在宅医療や緩和ケアについては、約7割が「関心がある」としており、講演会などにも7割強が参加したいと回答している。

さらに自由意見として、講演会や研修会の開催希望や情報提供を求める声も多く、在宅医療を推進するにあたり、市民の理解と協力は不可欠であるため、機会をとらえて市民にわかりやすい方法で周知を図っていく必要がある。

3. 在宅医療の希望と在宅医療体制の整備

最期を迎えたい場所としては、「自宅」が約半数、「病院」が約2割であり、「わからない」とするものも4分の1を占める。

また、脳卒中やがんなどで長期療養が必要となった場合、「在宅医療を希望する」ものは、3分の2を占めるが、「希望し実現可能だと思う」は全体の約1割であり、半数以上は「実現は難しいと思う」と回答している。その理由としては、①家族に負担をかけるから（54.9%）、②介護してくれる家族がいないから（15.5%）、③急に病状が変わったときの対応が不安だから（7.5%）、④経済的に負担が大きいから（7.2%）としており、住み慣れた家で暮らすことができたら幸せだと思うとの声がある反面、在宅療養を経験した介護者からは、家族の負担が非常に大きかった、核家族や高齢者世帯には無理がある、介護のために仕事を止めざるを得なかったなど、現実には厳しいという声が寄せられた。

今後、在宅医療体制の充実が必要だと認識しているものは4分の3を占め、最も重要だと思う体制は、①24時間いつでも診てもらえる体制（30.7%）、②家族の負担軽減のためのサービスの充実（30.1%）、③容態急変時の入院が可能な体制（12.8%）、④定期的に診療・訪問看護が受けられる体制（12.1%）があげられ、在宅医療を希望する市民が、安心して療養生活を送ることができるような在宅医療支援体制の整備が急務である。

